

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	ミュージカル
----	----	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな	ゆうげんがいしやそうごうげきしゅうだんはいゆうかん			団体ウェブサイトURL
制作団体名	有限会社総合劇集団俳優館			
代表者職・氏名	代表取締役・森釦			
制作団体所在地	〒	460-0008	最寄り駅(バス停)	名古屋市営地下鉄伏見駅
	愛知県名古屋市中区栄1-22-17			
電話番号	052-203-8721			
ふりがな	そうごうげきしゅうだんはいゆうかん			団体ウェブサイトURL
公演団体名	総合劇集団俳優館			<a href="https://hiyoucantk.wixsite.com/hi-you-can">https://hiyoucantk.wixsite.com/hi-you-can</a>
代表者職・氏名	劇団代表・森釦			
公演団体所在地	〒	460-0008	最寄り駅(バス停)	名古屋市営地下鉄伏見駅
	愛知県名古屋市中区栄1-22-17			
制作団体 設立年月	1986年2月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 森釦 取締役 祖川詩織 取締役 平田美帆 芸術顧問 ふじたあさや		団体構成員 13人(正会員)、客員5人 加入条件等 劇団総会の審議を経て役員会が入団を適当と認めた者	
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	森釦	
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	夏目みほ	

<p><b>制作団体沿革</b></p>	<p>1986年2月総合劇集団俳優館として発足。1990年3月法人化、有限会社総合劇集団俳優館。1990年6月、公益社団法人日本劇団協議会に加盟。1997年5月、日本児童青少年演劇劇団協議会(現協同組合)に加盟。 2001年3月、東京都優秀児童演劇賞奨励賞受賞(ミュージカル「ムクバクとチチャねこ」)作品賞。 2003年度、愛知県文化芸術文化選奨文化賞受賞(森釗、児童劇ミュージカルの脚本と制作)。 2011年度、松原英治・若尾正也記念演劇賞受賞(森釗、新劇100年企画連続公演)</p> <p>(主な作品)さんしょう太夫/カレーライス物語/ガラスのうさぎ/ごきげんなすてご/ムクバクとチチャねこ/*雨ニモマケズ/*ねこはしる/どん底/アンデルセンものがたり/新劇100年企画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ/はだしのゲン/三人姉妹/世界どうぶつ会議/ブルーストッキングの女たち/ヘルン氏のこわいかこわくないかわからない話/アラビアン・ナイト/賢治のドリームランドにつぼん/群青～雲ながれる果てに～/こぶとりじいさん、手袋を買いに/出雲の阿国/ヘンゼルとグレーテル/夏の夜の夢/*あらしのよるに/森は生きている/コーカサスの白墨の輪/ブンナよ、木からおりてこい/かもめ/修羅マクベス夫人</p> <p>*印 文化庁「本物の舞台芸術体験事業」作品「雨ニモマケズ」平成15,16年度、「ねこはしる」平成18,19,20,21,22年度、文化庁「文化芸術による子供育成推進事業」作品「あらしのよるに」令和4年度</p>		
<p><b>学校等における公演実績</b></p>	<p>2017年5月 ミュージカル「あらしのよるに」初演 文化振興基金助成 2017年～2019年度 ミュージカル「あらしのよるに」191公演 2018年5月～7月 福井県福井市、鯖江市内小学校公演 文化振興基金助成 上記年度には次の項目も学校等で公演している。 ミュージカル「ヘンゼルとグレーテル」22公演、「こぶとりじいさん」「手袋を買いに」8公演 宮沢賢治の「ドリームランドにつぼん」9公演、小泉八雲「ヘルン氏のこわいかこわくないかわからない話」5公演、「おおきなかぶ」6公演 2020年度 新型コロナウイルス流行により公演中止・延期あり35公演減少。ミュージカル「あらしのよるに」5公演、その他の作品4公演実施。 2021年度 ミュージカル「あらしのよるに」16公演、文化庁子どものための文化芸術鑑賞・体験再興事業プログラム選択型、学校による提案型22公演、計38公演。 新作ミュージカルシアター「ぐりむ♪りむりぐ♪むりぐ♪りむ」14公演。その他作品5公演。 2022年度 ミュージカル「あらしのよるに」愛知・三重・岐阜県下の小学校43公演、文化庁子どものための文化芸術鑑賞・体験再興事業プログラム選択型、学校による提案型13公演、文化芸術による子供育成推進事業(巡回公演事業)18公演。日本劇団協議会主催アートキャラバン事業9公演。その他作品17公演。</p>		
<p><b>特別支援学校等における公演実績</b></p>	<p>2008年、2009年に「ねこはしる」を本物の舞台芸術体験事業巡回公演で、岩手県一関市と北海道にて実施しました。 ミュージカル「あらしのよるに」2021年度プログラム選択型で京都府1校実施、2022年度文化芸術による子供育成推進事業(巡回公演事業)で大阪府1校実施。</p>		
<p><b>参考資料の有無</b></p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://drive.google.com/drive/folders/18ZAQDqzPs8P4fWHqLTbg8YGT0QOwcxvG?usp=sharing">https://drive.google.com/drive/folders/18ZAQDqzPs8P4fWHqLTbg8YGT0QOwcxvG?usp=sharing</a></p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>※ご請求頂ければ、本編DVDを提出いたします。</p>
		<p>PW:</p>	

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 総合劇集団俳優館】

対象	小学生(低学年)	○	/
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	ミュージカル「あらしのよるに」		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	原作:きむらゆういち「あらしのよるに」講談社刊 脚本:三樹健 作曲:ノノヤママナコ 演出・振付:ほりみか <div style="text-align: right;">公演時間 70 分</div>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名 原作使用料、脚本使用料、音楽使用料
	該当事項がある場合	権利者名 三樹健、きむらゆういち事務所、ノノヤママナコ	許諾確認状況 使用(上演)許諾取付済
演目概要	きむらゆういち作「あらしのよるに」を原作にミュージカルに舞台化。 ヤギとオオカミが共に生きるという弱肉強食の動物の世界では、あり得ないような友情、勇気、思いやりが物語られている。あらしの夜、真っ暗な小屋の中で出会ったオオカミのガブとヤギのメイ。顔も見えず相手が誰なのかわからない。ところが妙に気が合ってピクニックに行こうなどと約束する。それを知った森じゅうの動物たちは大騒ぎ。会ったとたん ヤギはオオカミにパクッと食べられてしまうぞ！しかしオオカミはヤギを食べなかった。それどころか、違っていたも一緒にいると何となくホッとする大切な友だちだと思いはじめ。が、群れからは許されず追われた2匹は、互いの友情のため、生きるために吹雪の山を越え新しい天地を目指す。		
演目選択理由	「あらしのよるに」には異なる者同士が違いを乗り越え共に生きるという共生のテーマを内包している。日本人の心底には外国崇拜の反面、同一民族性というか、異人種に対する偏見、排外思想が潜んでいる。それが子どもの世界では、違っていることを理由に仲間はずれ、いじめの形となって表れていると思われる。 この作品を通じて、子どもたちが、いじめの底にある異なる者を敵視したり排除しようとするゆがみの正体を知り、勇気をもって友情を育み、融和と共生の心、多様性の認識が大切であることを考えて欲しいと。そこで、子の演目を選択した。		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	①児童入場時：俳優たちが衣装を着けて待機し、挨拶の声などをかけあいながら客席に誘導します。出演者との交流・一体感を準備します。 ②共演の形態について：劇中エンディングテーマ「♪気の合う友だち」の音源と楽譜を、事前に学校にお送りし、本番当日、劇中で鑑賞児童全員に客席から合唱してもらいます。また、共演する一部の児童には、終盤の「オオカミのガブがヤギのメイと友だちであった記憶を取り戻すシーン」でお花の役として登場してもらい、そのままエンディングテーマ「♪気の合う友だち」を歌い踊ってもらいます。お花役・「♪気の合う友だち」の歌と振付は、事前ワークショップにて詳しくレクチャーしますが、本番当日も共演児童のみ公演前にリハーサルを行います。		
出演者	出演者と主な役名(コスはオオカミorヤギを演ずる。) 稲吉直人 在籍33年・・・ガブ(オオカミ) 谷口真規 在籍15年・・・メイ(ヤギ) 馬場祥 経験7年・・・ギロ(オオカミ)、クロス 今村しんすけ 在籍5年・・・タブ(ヤギ)、クロス 今枝蛭 経験8年・・・ヤギの長老、クロス 鈴来かえり 在籍7年・・・バリー(オオカミ)、おばさんヤギ、クロス 柴田梨沙 在籍5年・・・サル、クロス 夏目みほ 在籍5年・・・リス、クロス		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 8 名 スタッフ: 6 名 合計: 14 名	運搬	積載量: 3 t 車長: 7 m 台数: 1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無		前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
	8:30	8:30-12:00		13:00-14:10	0分	14:30-16:30	16:30	
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。							
本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月			
	12日			12日	12日			
	11月	12月	1月	計	66日			
	12日	6日	12日					
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。								
児童・生徒の 参加可能人数	本公演			共演人数目安		15		
				鑑賞人数目安		300		



公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出や  
がわかる写真)



※採択決定後、採  
択団体へ図面等詳  
細の提出をお願い  
します。

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	60名(1学年程度)、当該校の希望に対応します。
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>ワークショップ講師 ミュージカル「あらしのよるに」演出家1名、出演者3名、計4名を基本メンバーとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講演：ミュージカルとは何か。ミュージカル「あらしのよるに」はどのように生まれたか。</li> <li>2. 体を動かしてみよう：ゲーム感覚で体をうごかし、体と心の緊張をほぐします。また空間認知のゲームも行います。</li> <li>3. 台詞を言ってみよう：簡単な一言のセリフを色んな言い方で相手に届ける練習をします。</li> <li>4. 歌ってみよう：発声練習の後、ミュージカル「あらしのよるに」の、劇中エンディングテーマ「♪気の合う友だち」を一緒に歌います。ただ歌うだけではなく、「怒りながら歌う」「笑いながら歌う」など行動や感情を「歌う」に結び付けてみる、ということを実践してもらいます。</li> <li>5. 踊ってみよう：「♪気の合う友だち」を、こちらで用意した振付で踊ってもらいます。歌いだしから後奏まで丸々一曲踊れるようになります。</li> <li>6. 共演シーンの練習：公演当日、児童が共演する場面を出演者と共に練習します。共演児童には、作品終盤の「オオカミのガブがヤギのメイと友だちであった記憶を取り戻すシーン」でお花の役として登場してもらいます。ミュージカル「あらしのよるに」では、動物以外にも、蝶・木枝・霧・雪など自然物の役もたくさん登場します。人間・動物以外にも人間が演じることで作品がつくりあげられているということも、合わせて説明します。</li> <li>7. 作品とミュージカルへの理解をより深めることのできるDVDを作成し、必要に応じて教材として活用頂きます。ワークショップ前後で児童さんにご覧いただけます。</li> </ol>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講演：ミュージカル「あらしのよるに」について、作品の内容とミュージカルの魅力を周知し公演に関心と興味を持ってもらいます。</li> <li>2. 体を動かしてみよう：次のワークに向けて、体と心の緊張をほぐします。空間認知のゲームでは、「周りの状況を認識したうえで自分のアクションを起こす」必要性を知ってもらいます。</li> <li>3. 台詞を言ってみよう：簡単な台詞を練習する内に「自分ってこんな声が出るんだ」「こうやって言うと、相手にこんな印象を与えるんだ」という新たな発見が生まれます。</li> <li>4,5. 歌ってみよう、踊ってみよう：ミュージカルの表現方法である「歌」「ダンス」を体験し、よりミュージカルを身近なものに感じてもらいます。「歌やダンスは難しい」という固定概念を払拭します。</li> <li>6. 共演シーンの練習：ミュージカル・お芝居の出演者と同じ演劇的体験を共有する意図のもと、本番同様にいきます。</li> <li>7. DVD教材の活用：事前ワークショップ時のみだけでなく、学校の普通の授業内でもミュージカル・舞台芸術について扱ってもらえるような工夫です。観劇体験がより身近なものになることを狙っています。</li> </ol>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>共演シーンで共演児童に使ってもらった「お花」を、事前に学校と相談の上、共演児童自身に作ってもらいます。</p>		